

クラス番号	644	担当教員名	小林 勇人
テーマ	働くことと社会保障の関係に着目し、望ましい福祉社会のあり方を考える		
著書・論文	研究課題：ワークフェアの実態把握と政策評価——就労支援・所得保障政策の再構築に向けて 著書：2010「カリフォルニア州の福祉改革」渋谷博史・中浜隆編『アメリカ・モデル福祉国家 I』昭和堂, 66-129.		
研究課題等	2012「ワークフェアと生存権」山森亮編『労働と生存権』大月書店, 171-203. 2012「ワークフェアと福祉政治」宮本太郎編『福祉政治』ミネルヴァ書房, 151-67. 2013「ワークフェアと労働」武川正吾編『公共性の福祉社会学』東京大学出版会, 29-52.		

ゼミナール概要

キーワード：能力主義、所得保障、社会保障、公的扶助、就労支援

目的、内容、方法等：

近年、非正規雇用や一人親世帯が増加するなど雇用や家族が不安定化し、低所得・失業・貧困問題が深刻化しています。このようななかで多くの人々にとって社会保障の持つ重要性が増しています。しかし、福祉はできる限り労働能力の無い者に限定し、労働能力の有る者は自分で働いて問題解決を行うべきだという考え方が、社会には根強く存在しています。たとえば、若者やシングルマザーなど就労可能な者が生活保護を利用することは「依存」とみなされ、就労を通じた「自立」が求められる傾向にあります。また最近では就労困難な者が働いて「自立」するよう「就労支援」が強調されることが多くなりました。ですが就労困難な時代において、「就労支援」がどれほど問題の解決に繋がるのでしょうか？

本ゼミの目的は、低所得・失業・貧困問題に対して、個人の「自己責任」に還元するのではなく、社会がどのように応答して人々のニーズを充足していくのかを考えることです。福祉社会では、人々の多様なニーズを巡って、行政・企業・NPO など多くのアクターが関与するとともに、様々な制度・政策が張り巡らされています。そのためゼミの内容は多岐に渡ることが予想されますが、働くこと（の支援）と社会保障の関係に着目しながら、主に制度・政策分析という方法からアプローチする予定です。学習目標は、制度利用者（当事者）の立場にたって政策を考える力を身につけることです。

社会は、単に賃労働を基にした経済的自立のみからなるのではなく、相互の様々な「依存」から成り立っています。本ゼミでは、＜相互依存＞という関係の網の目を糸口にして、どのような福祉社会が望ましいのかを、みなさんと共に粘り強く模索していきたいと思えます。（労働）能力の有る・無しや高い・低いによって、受け取ることができるものや生活のあり方さらには存在価値までが大きく異なるのは、おかしいんじゃないか？ そんな問題意識のある人を歓迎します。

授業計画：

（3年生）

前期：文献講読とディスカッションによって、基本的な概念や理論を習得し、個々の研究テーマを選択します。

後期：文献研究やフィールドワーク等を通じて、個々の研究テーマを掘り下げ、卒業論文の準備を行います。

（4年生）

前期：卒業論文の研究・執筆をすすめ、中間報告会を開催します。

後期：卒業論文を完成させ、卒業論文集を作成します。

担当教員からのメッセージ



簡単に自己紹介をすると、私はこれまで能力主義に問題意識をもちながら、アメリカや日本の公的扶助を研究してきました。詳細はHP <http://workfare.info/> をみてください。

大学生活においてゼミでの2年間は、真剣に学問を学ぶ刺激的な時間と、大切な仲間に出会う機会を提供してくれます。楽しいゼミにしましょう！